

交通渋滞緩和の取り組みを進めています

7月24日、町内各企業が行う通勤時間帯の交通渋滞緩和対策の効果を検証するため、交通渋滞実態調査を行いました。その結果、調査箇所が多くで信号待ちの車が減っていることが分かりました。調査結果は以下のとおりです。

人口増加および企業立地などに伴い、通勤時間帯に発生している交通渋滞の緩和対策として、セミコンテックパーク内各企業が行う取り組みの効果を検証するため、今年4月に引き続き調査を実施しました。

本調査では、車列の長さや右折矢印信号の通過台数を計測しました。朝の通勤時間帯は、調査箇所10カ所のうち9カ所で、夕方の退勤時間帯は、調査箇所11カ所のうち9カ所で信号待ちの車が減っていました。また、朝夕それぞれ4カ所で4月の調査時の半分以下の長さに緩和されました。

現在、町では、渋滞緩和のための主な事業として、県や国と連携しながら、菊陽空港線延伸事業や国道57号、南方大人足線の交差点の整備を進めています。今

各企業の渋滞緩和の取り組みとして、東京エレクトロン九州が7月から従業員約2,500人を対象に時差出勤を開始しました。また、ソニーセミコンダクタマニファクチャリングは、導入していたフレックスタイムのコアタイムを4月から廃止しました。それらの取り組みにより、出勤時間が分散したことが渋滞緩和に繋がっています。

後、セミコン通勤バスの増便やダイヤ改正なども含め、ハード・ソフトの両面で渋滞緩和に向けた対策を行っています。

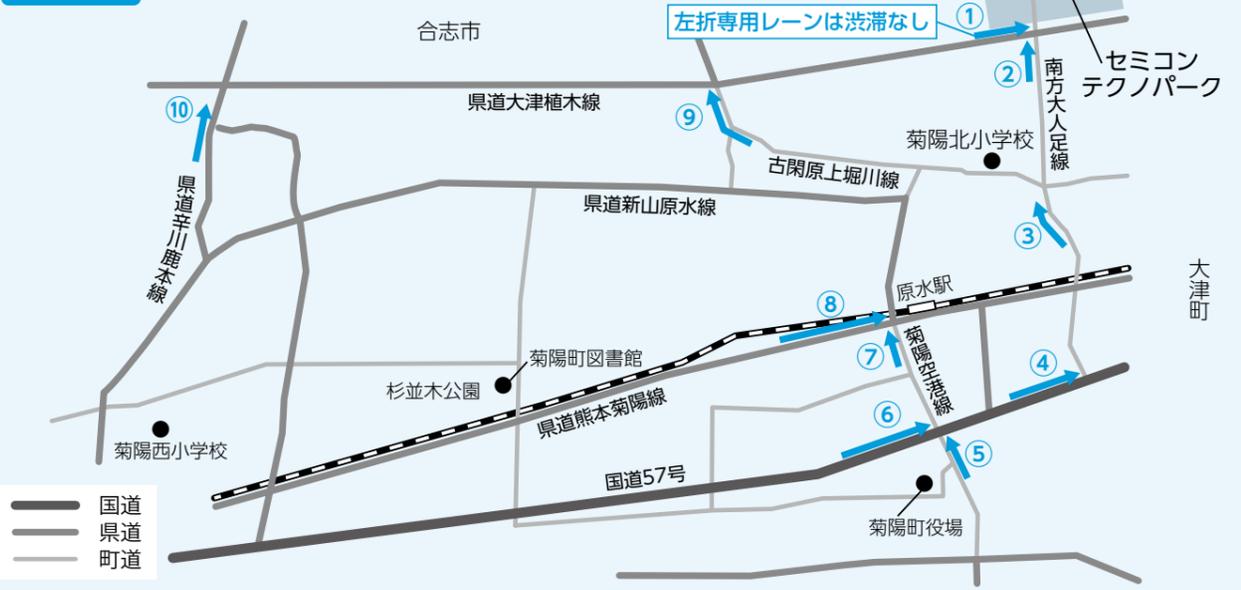
退勤時の結果など、詳しい調査結果は、町ホームページで公表します。

建設課 建設係
商工振興課 商工振興係
TEL (232) 2115
FAX (232) 2165



朝の通勤時間帯の南方大人足線の様子

調査箇所 (朝の通勤時間帯)



調査結果 (朝の通勤時間帯)

調査箇所		① 県道大津植木線 (直進レーン)	② 南方大人足線	③ 南方大人足線	④ 国道57号	⑤ 菊陽空港線 (右折レーン)	⑥ 菊陽空港線 (直進左折レーン)
滞留長 m (平均)	前回	211	466	486	700	220	179
	今回	336	101	411	349	141	57
増減率 (平均)		59%	-78%	-15%	-50%	-36%	-68%

調査箇所		⑦ 国道57号	⑧ 菊陽空港線	⑨ 県道熊本菊陽線	⑩ 古閑原上堀川線	⑪ 県道辛川鹿本線
滞留長 m (平均)	前回	367	148	749	219	763
	今回	191	47	196	144	582
増減率 (平均)		-48%	-68%	-74%	-34%	-24%

滞留長
1回の赤信号で滞留する車列の長さ。
前回：4月17・18日に実施。

企業誘致の取り組み

半導体産業企業誘致推進本部を開催

町では、半導体産業に関わる必要な施策の実行や情報共有を目的に、「菊陽町半導体産業企業誘致推進本部」を設置しており、8月4日に会議を開催しました。

今回の会議では、JASM従業員(台湾からの移住)の状況、セミコン通勤バスのルート新設、企業の渋滞対策の取り組み、町で実施した交通渋滞実態調査結果、教育委員会の通学路安全プログラムなどの情報共有を



本部会議での町長のあいさつの様子



本部会議全景

図り、協議を行いました。

8月から、TSMC (JASM) の従業員が台湾から移住するとの報告があり、渋滞対策では、引き続き町の事業を確実にやっていくことや、企業の時差出勤などの取り組みが効果を上げていることを踏まえ、これまで以上に企業と行政が連携して対応を進めていく方針を確認しました。

渋滞および環境負荷対策

セミコン通勤バスの増便とルートの新設

8月2日から、セミコン通勤バスの既存ルートの増便(強化)と、JASM経由ルートの新設を行い、朝19便・夕16便の合計1日35便の運行を開始しました。

セミコン通勤バスは、渋滞対策とCO₂削減による環境負荷の軽減を目的に、平成27年から運行しています。これまで、運行会社である熊本電鉄バスなどの関係機関と連携の上、利用状況に応じてダイヤ改正や増便を実施してきたことで、年々利用者が増加しており、1日1,000人以上が利用する日もあります。

今回の増便、ルートの新設により、利用者の利便性向上が図られることから、今後、さらなる利用者増加を見込んでいます。

